

「香取市人口ビジョン」及び「香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要（骨子案）

香取市人口ビジョン（素案）

香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015～2019 年度の 5 年間）（素案）

I 香取市の人口の状況分析

(1) 香取市の現状

香取市の人口は、昭和 60 年の 93,573 人（合併前の 1 市 3 町の人口の合計）をピークに、平成 27 年は 78,002 人となり、15,571 人の減少となっている。また、年齢階層別人口では、15 歳未満の年少人口の比率が減少する一方、65 歳以上の老年人口の比率が大幅に増加している。

(2) 地域の状況

本市の自然増減は、平成 8 年以降、死亡数が出生数を上回る「自然減」の状況が続いている。また、社会増減についても、平成 7 年以降、転出者が転入者を上回る「社会減」の状況が続いており、「自然減かつ社会減」の地域となっている。

(3) 将来人口推計

- ◆ 国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、本市の人口は、20 年後の平成 47 年には 57,719 人と約 2 万人減少し、45 年後の平成 72 年には、33,817 人と、現在の人口の半分以上まで減少することが見込まれる。
- ◆ 年齢階層別人口では、年少人口、生産人口ともに減少傾向にあり、生産年齢人口の減少に伴い、生産年齢人口の構成比は、平成 47 年には、50.0%まで低下することが見込まれる。

一方、老年人口は、平成 32 年をピークにやや減少傾向に転じることが見込まれるが、老年人口の構成比は平成 42 年には 40%を超え、平成 72 年には、46.2%になることが見込まれる。

II 人口の将来展望

(1) 目指すべき将来の方向

「元氣と笑顔があふれるまち 一人ひとりの市民が輝く 活気みなぎる やすらぎの郷 香取」を将来都市像として、実現に向けた施策を展開するとともに、人が集まり、にぎわいのあるまちづくりを目指します。

(2) 香取市の将来人口【展望イメージ】

現状の合計特殊出生率 1.37（平成 20～24 年の平均）の向上を図り、平成 32 年に 1.44、平成 42 年に 1.80、平成 57 年に 2.07 が達成され、社会増減の要因である移動率が、比較的転入超過であった平成 3～平成 7 年程度まで改善するケースを想定し、香取市の総人口を平成 52（2040）年に 6 万 5 千人、平成 72（2060）年に、5 万 3 千人程度の維持を目標とする。

香取市人口ビジョンを踏まえ、将来にわたって活気とにぎわいのある地域を実現するため、住み慣れた地域で誰もが安心していきいきと暮らせる社会の形成や豊かさを実感でき、活力ある産業を育むまちづくり目指し、就業機会を創出することなどを一体的に推進するため「4つの基本目標」を設定し、地域の課題を踏まえた施策を展開する。

《4つの基本目標》

《4つの基本目標に対する施策》

(1) 地域における安定した雇用を創出【しごと】

雇用の場となる企業を誘致し、若者の雇用の場を確保し、人口流出に歯止めをかけるとともに、市の基幹産業である農林畜産業をはじめ、商業・工業・観光などの地域経済がにぎわい、活発化することにより、人が集う、活力あるまちづくりを進める。

- 農林畜産業の担い手・後継者の育成やブランド化と販路の拡大
- 地域を支える持続可能な農業の展開
- 企業誘致や起業等への支援
- 中小企業の活性化支援や商業団体の育成、支援
- 新たな就業の支援

(2) 定住と本市への交流・移住を促進【ひと・まち】

魅力あるまちづくりを推進することにより、定住人口の減少を食い止めるとともに、交流人口の増大を図り、移住へとつながるような情報発信や支援を行い、新しいひとの流れを創出する。

- 観光資源の連携による回遊性の向上及び中心市街地の活性化
- 観光資源の活用による市内外への情報発信及び新たな交流・集客の促進
- 住環境面からの定住・移住推進体制の整備
- 新たな都市農村交流の潮流を創出■

(3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境の整備（ひと）

若い世代の結婚・出産・子育ての希望を実現させるとともに、少子化に歯止めをかけ、地域全体が子育てに関心を持ち、子供が健やかに成長できるまちを推進する。
地域の宝である子供を産み、育てていきたいという意識を抱けるまちをつくり上げていけるよう「親への支援の充実」「子育て環境の充実」「地域による子供の見守り」などの子育て支援とともに、若い世代への結婚を促すことで、出生率の向上を図る。

- 婚姻率・出生率の向上
- 地域における子育て支援体制の充実
- 子育て世代への経済的負担の軽減
- 教育環境の整備
- 保健機能の充実

(4) 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域の連携を促進（まち）。

人口減少、少子・高齢化社会においても、人々が地域で、元氣に安心して暮らせるよう支え合い、助け合いの力を大切に市民協働の地域づくりを進めるとともに、地域防災体制の充実を図り、安心して暮らすことのできるまちづくりを進める。

- 再生可能エネルギーの利活用
- 地域防災体制・危機管理体制の整備
- 市民協働による地域づくりの推進
- 既存ストックマネジメントの強化
- 公共交通の利便性の向上
- 近隣自治体等との広域連携活動の推進

◎ 3つの基本的視点で「人口減少克服・地方創生」に正面から取り組む

① 東京圏における人口の過度の集中を是正する

地方から東京圏への人口流入（特に若い世代）に歯止めをかけることを目指す。このため、「しごとの創生」と「ひとの創生」の好循環を実現。

② 若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する

人口減少を克服するために、若い世代が安心して働き、希望通り結婚し、子育てができるような社会経済環境を実現。

③ 地域の特性に即して地域課題を解決する

人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応し、地域が直面する課題を解決し、地域において心豊かな生活を確保。